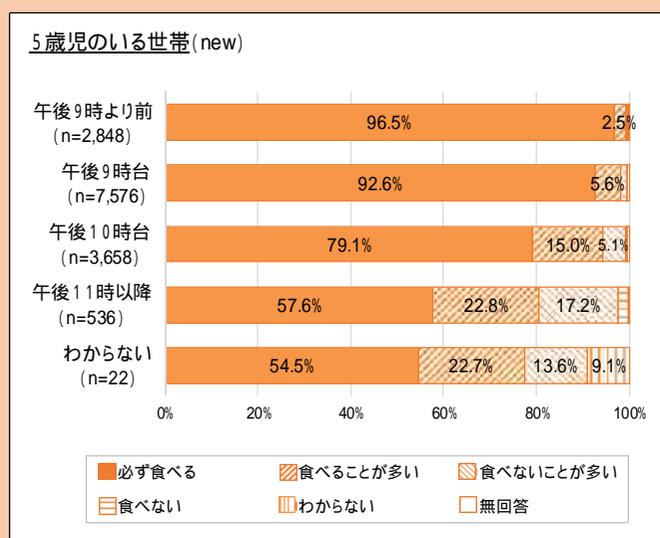
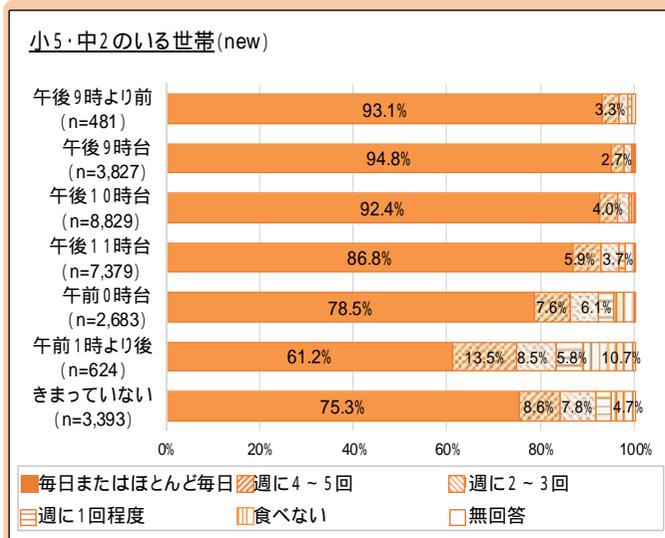
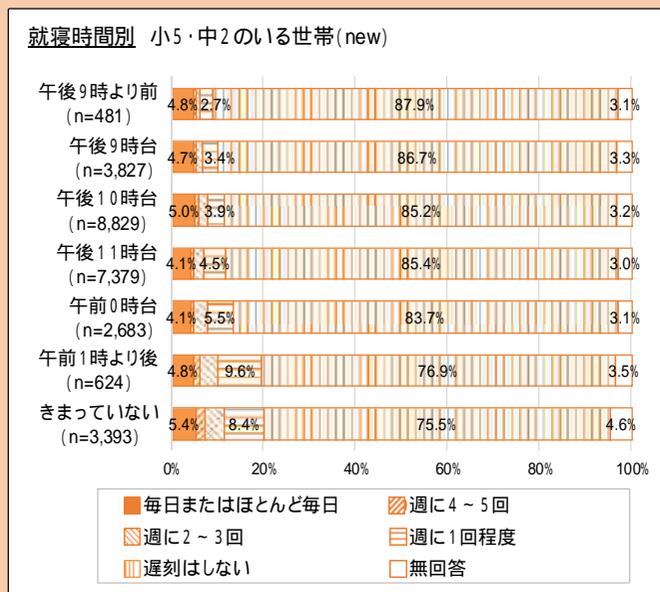
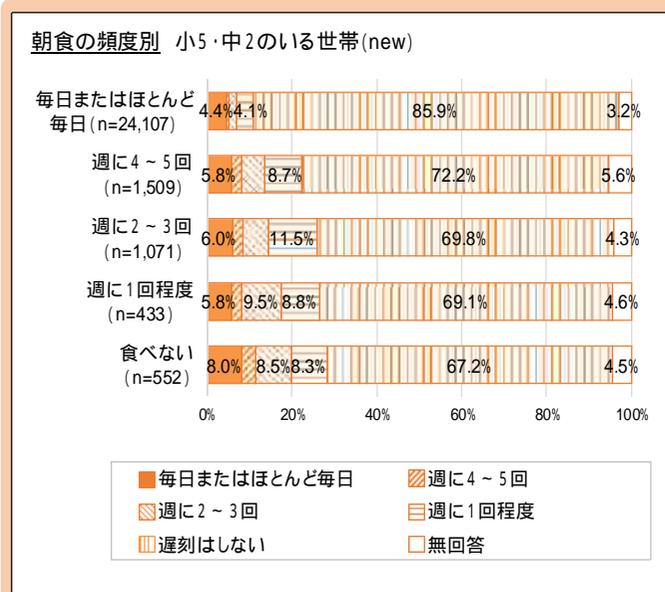


## 2 就寝時間別に見た朝食の頻度



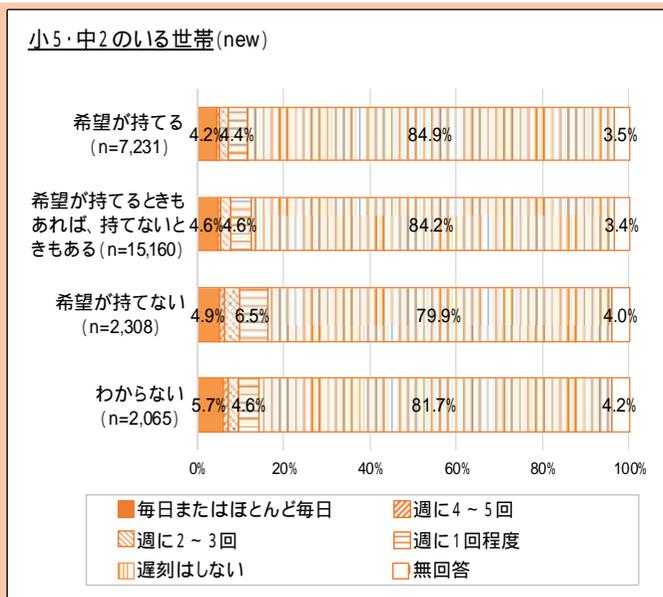
就寝時間別に朝食の頻度を見ると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっており、5歳児のいる世帯においては、就寝時間が遅くなるほど、「必ず食べる」割合が低くなっています。

## 3 朝食の頻度別、就寝時間別に見た遅刻の状況



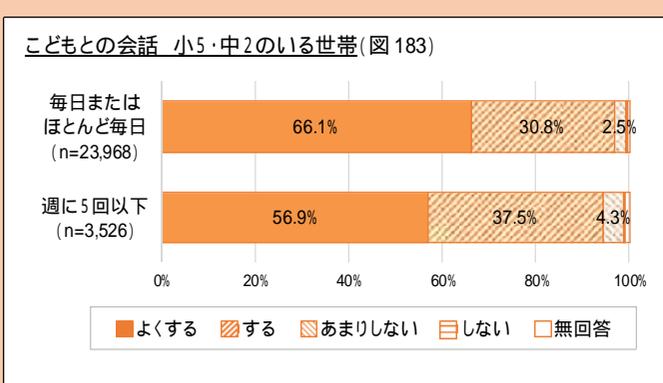
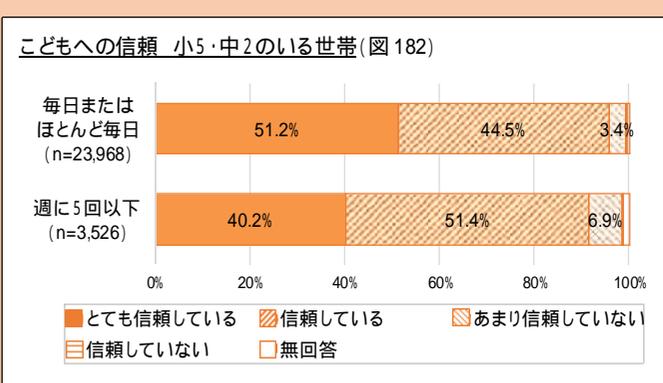
困窮度が高くなるにつれ、朝食や睡眠に関する望ましい生活習慣が定着していない割合が高くなっていきますが、朝食の頻度別、就寝時間別に遅刻の状況を見ると、望ましい生活習慣が定着していないほうが、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっており、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べる場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 85.9%であるのに対し、朝食を「食べない」場合は 67.2%となっています。また、就寝時間が「午後9時台」の場合、「遅刻はしない」と回答する割合は 86.7%であるのに対し、「午前1時より後」の場合は 76.9%となっています。

#### 4 保護者の将来への希望別に見た遅刻の状況



「希望が持てる」場合は「遅刻はしない」と回答する割合は 84.9%であるのに対し、「希望が持てない」場合は 79.9%となっています。

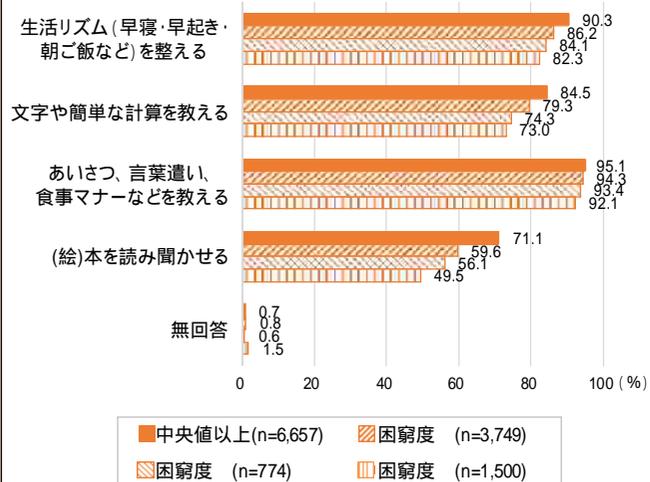
#### 5 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもとの関わり



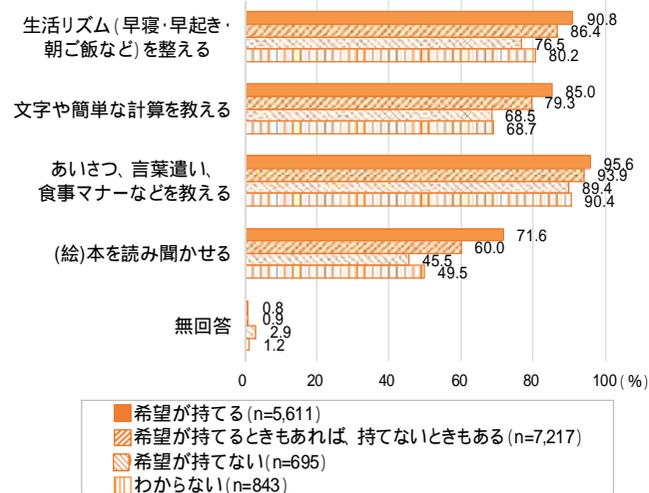
朝食の頻度と保護者と子どもとの関わりについて見ると、「毎日またはほとんど毎日」群の方が、子どもを「とても信頼している」と回答する割合が高く、また、子どもと会話を「よくする」と回答する割合が高くなっています。

## 6 5歳児におけるしつけの状況

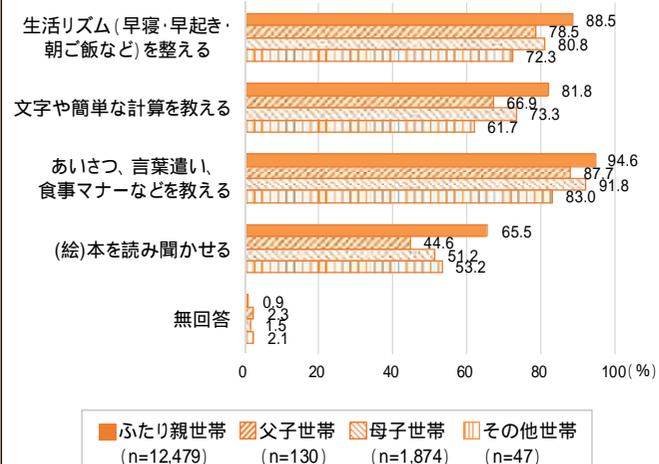
困窮度別(図 160)



保護者の将来への希望別(図 162)



世帯構成別(new)



乳幼児期は、こどもの健やかな発育・発達及び健康の保持・増進の基盤となる時期であると同時に、望ましい食習慣や生活習慣の形成に極めて大きな役割を果たす時期です。

困窮度別にしつけの状況を見ると、困窮度が高いほど、しつけをしている割合が低くなっています。

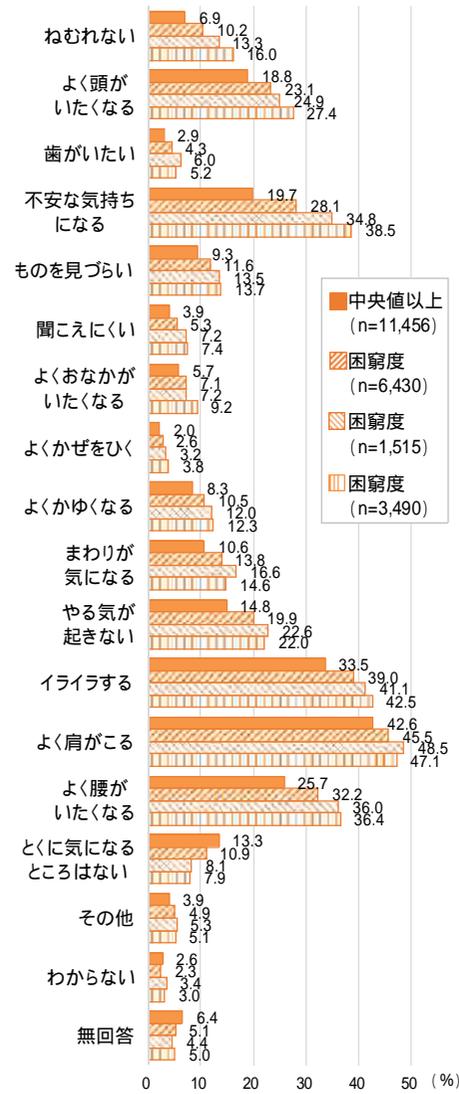
保護者の将来への希望別にしつけの状況を見ると、希望が持てないほど、しつけをしている割合が低くなっています。

世帯構成別にしつけの状況を見ると、ふたり親世帯、母子世帯、父子世帯の順にしつけをしている割合が低くなっています。

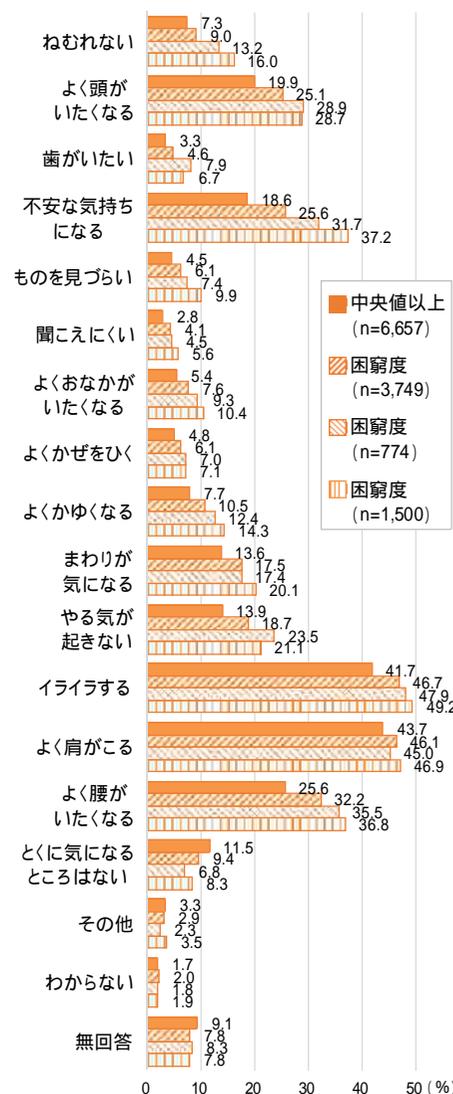
## 7 心身の自覚症状

### ・困窮度別

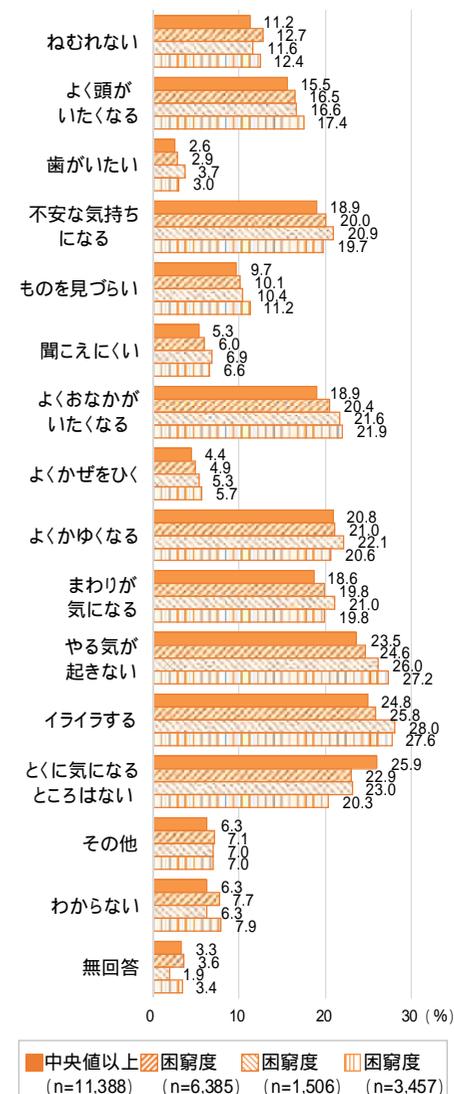
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(図194)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(こども回答)(図192)



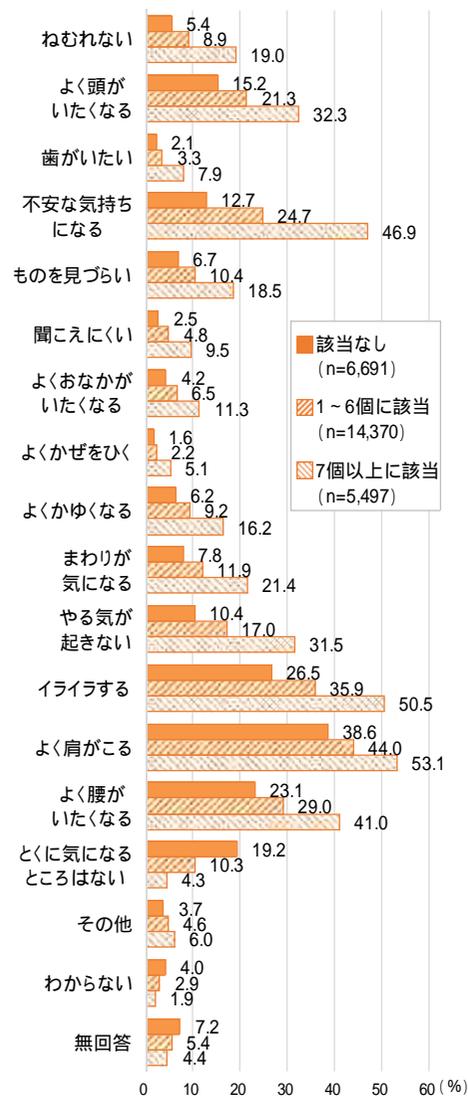
心身の自覚症状について、困窮度別に中央値以上群と困窮度群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.3倍)」「よくかぜをひく(1.9倍)」「聞こえにくい(1.9倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「ものを見づらい(2.2倍)」「ねむれない(2.2倍)」「歯が痛い(2.0倍)」の順に大きくなっています。

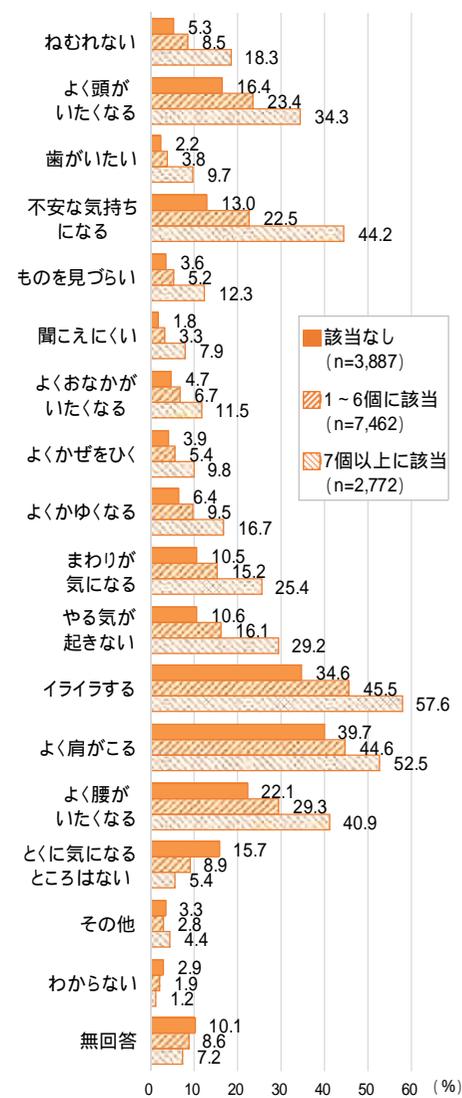
こどもについては、保護者の場合ほどには、中央値以上群と困窮度群との間で差の倍率が大きい項目はありませんが、「特に気になるところはない」について、中央値以上群が25.9%であるのに対し、困窮度群が20.3%となっています。また、「イライラする」「やる気が起きない」については困窮度に関わらず、およそ4人に1人が該当する状況になっています。

・世帯における経済的な理由による経験該当数別

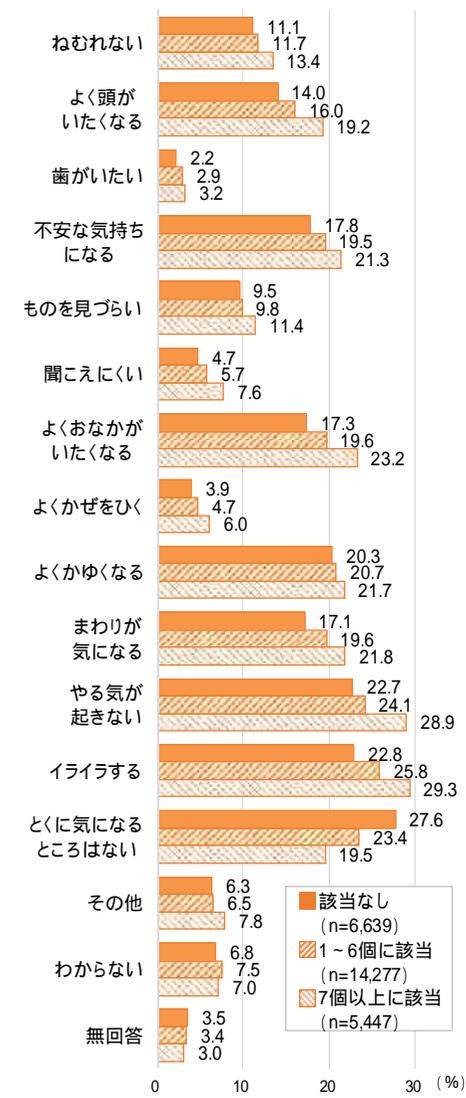
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(図 195)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(子ども回答)(図 193)



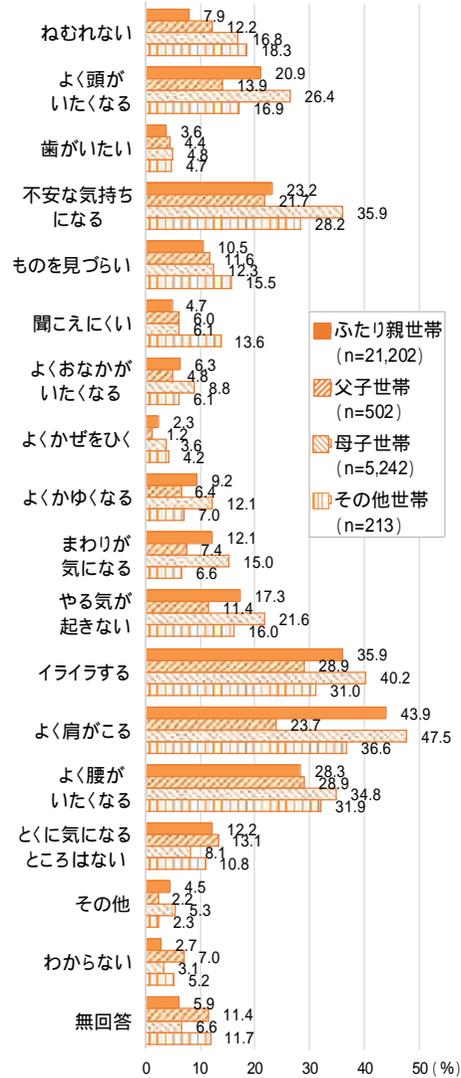
心身の自覚症状について、世帯における経済的な理由による経験(5ページのグラフ参照)の該当数別に、該当なし群と7個以上に該当群との間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「聞こえにくい(3.8倍)」「歯がいたい(3.8倍)」「不安な気持ちになる(3.7倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「歯がいたい(4.4倍)」「聞こえにくい(4.4倍)」「ねむれない(3.5倍)」の順に大きくなっています。

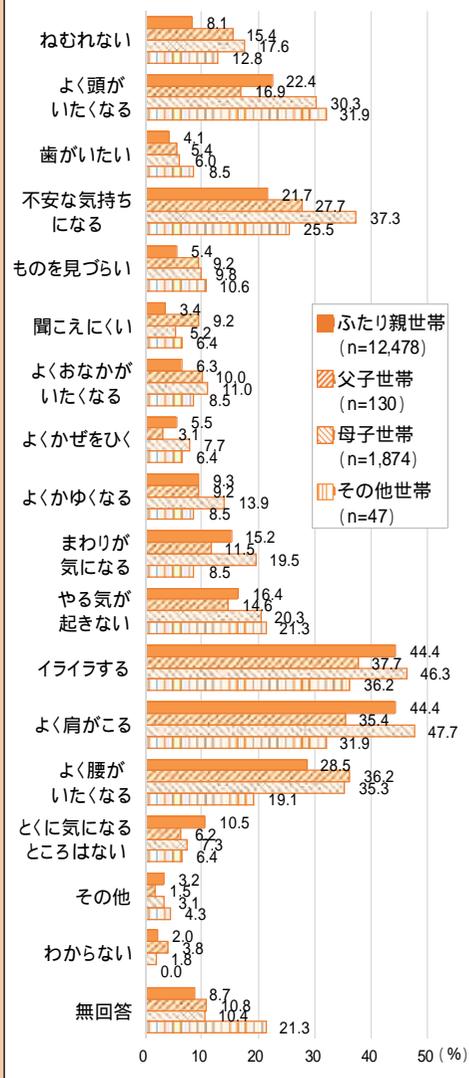
また、子どもについては、「聞こえにくい(1.6倍)」「よくかぜをひく(1.5倍)」「歯が痛い(1.5倍)」の順に大きくなっています。

・世帯構成別

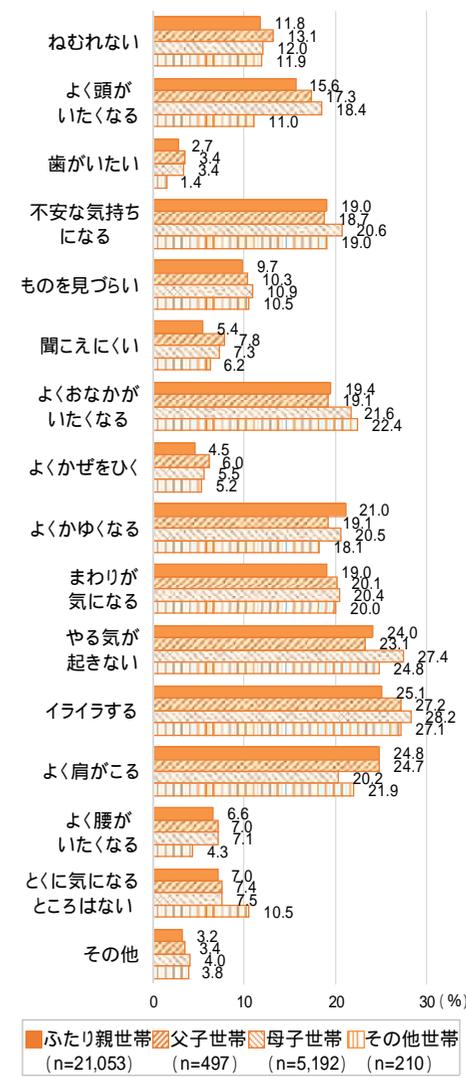
小5・中2のいる世帯(保護者回答)(new)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)



小5・中2のいる世帯(こども回答)(new)



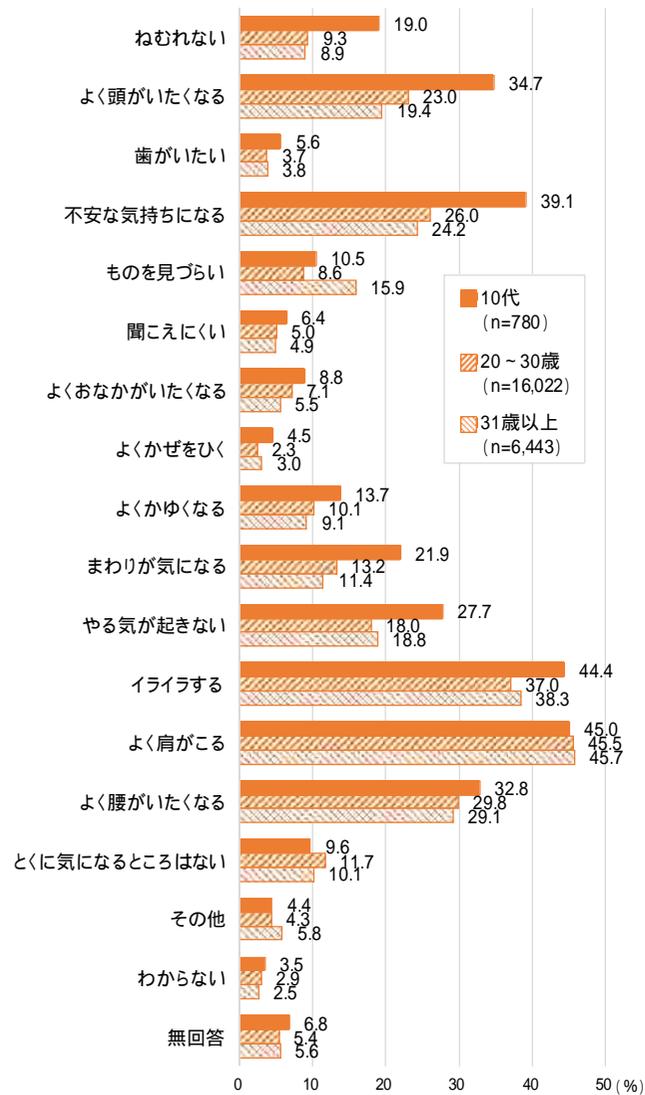
心身の自覚症状について、世帯構成別に、ふたり親世帯と父子世帯又は母子世帯のいずれかとの間で差の倍率が大きい項目に着目して見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者については、「ねむれない(2.1倍)」「よくかぜをひく(1.6倍)」「不安な気持ちになる(1.6倍)」の順に大きくなっています。

5歳児の保護者については、「ねむれない(2.2倍)」「ものを見づらい(1.8倍)」「よくおなかがいたくなる(1.8倍)」の順に大きくなっています。

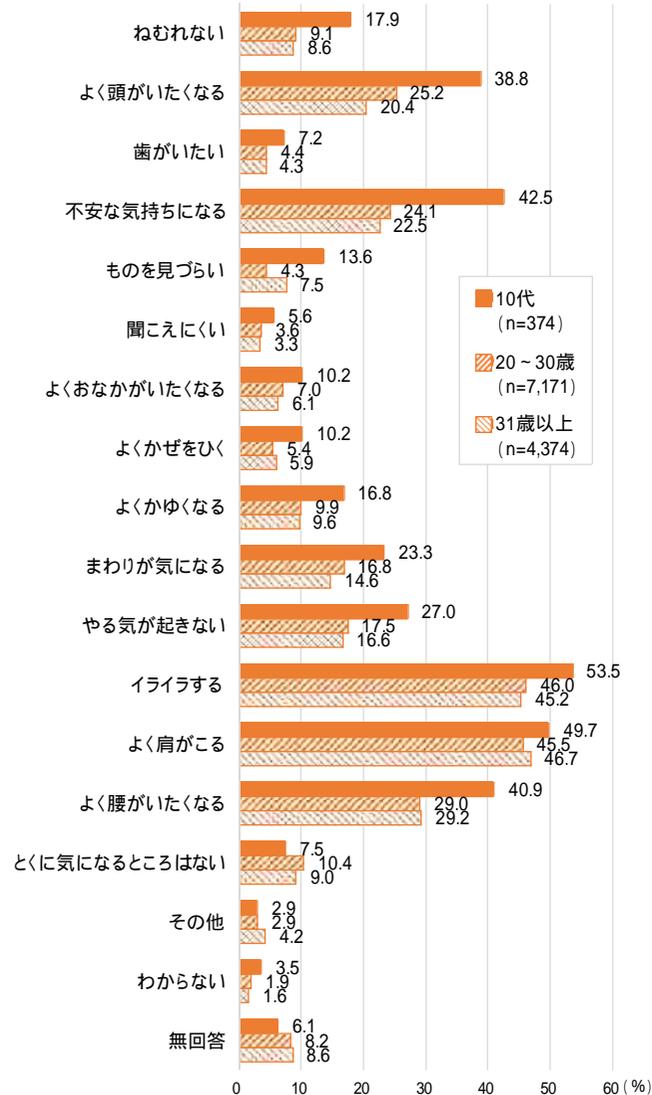
こどもについては、「聞こえにくい(1.4倍)」「よくかぜをひく(1.3倍)」「歯が痛い(1.3倍)」の順に大きくなっています。

・初めて親となった年齢別

小5・中2のいる世帯(保護者回答)(new)



5歳児のいる世帯(保護者回答)(new)

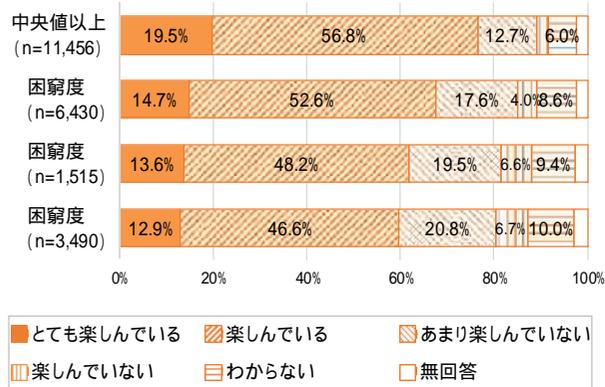


心身の自覚症状について、初めて親となった年齢別に見ると、小学校5年生・中学校2年生の保護者、5歳児の保護者ともに「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」といった項目において、10代群は他の群に比べて顕著に割合が高くなっています。

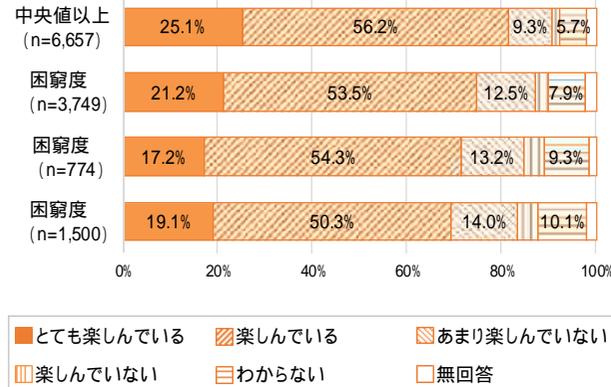
## 8 困窮度別に見た保護者の心の状態

### ・生活を楽しんでいる

小5・中2のいる世帯 (図 199)



5歳児のいる世帯 (図 139)



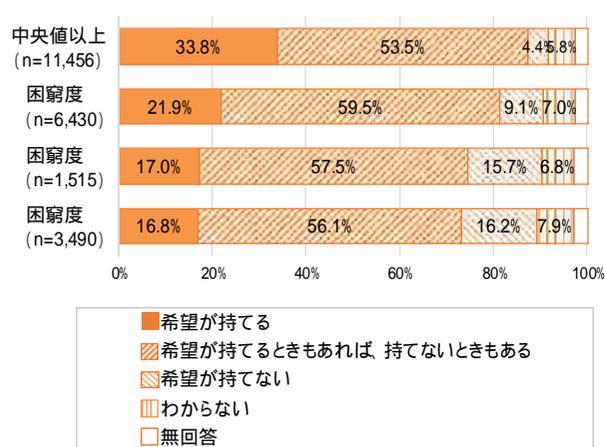
困窮度別に保護者の心の状態について見ると、困窮度が高くなるにつれ肯定的な回答の割合が低くなっています。

生活を「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の76.3%に対し困窮度群は59.5%となっています。

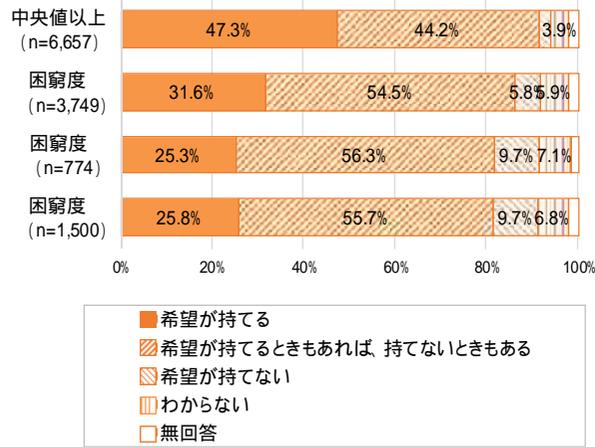
5歳児の保護者では、中央値以上群の81.3%に対し困窮度群は69.4%となっています。

### ・将来への希望

小5・中2のいる世帯 (図 200)



5歳児のいる世帯 (図 140)

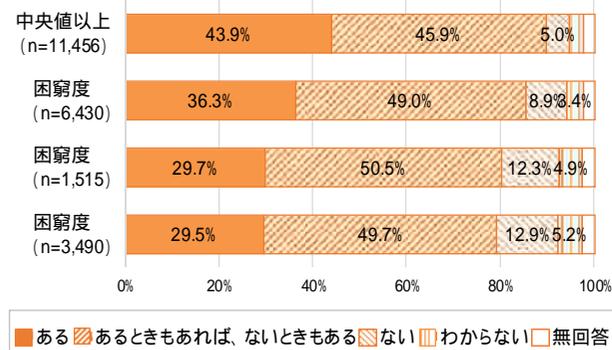


将来に「希望が持てる」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の33.8%に対し困窮度群は16.8%となっています。

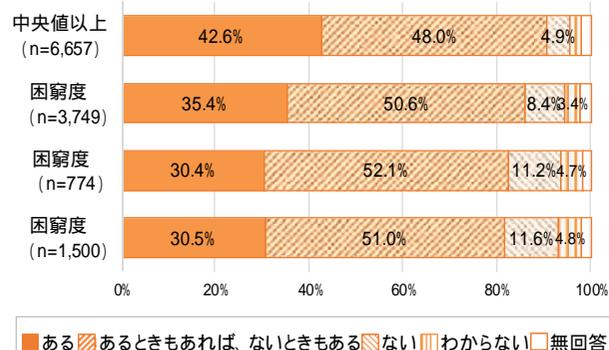
5歳児の保護者では、中央値以上群の47.3%に対し困窮度群は25.8%となっています。

・ストレスを発散できるものが「ある」

小5・中2のいる世帯(図 201)



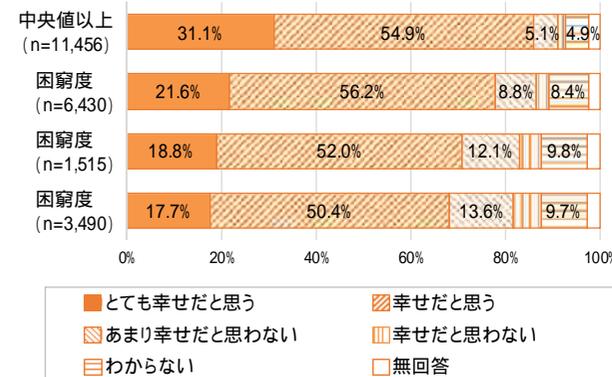
5歳児のいる世帯(図 141)



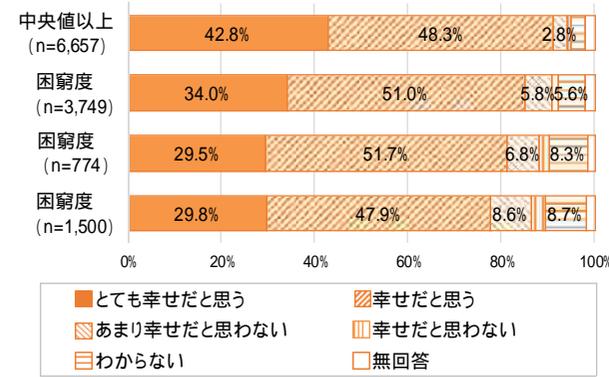
ストレスを発散できるものが「ある」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の43.9%に対し困窮度群は29.5%となっています。  
5歳児の保護者では、中央値以上群の42.6%に対し困窮度群は30.5%となっています。

・幸せだと思う

小5・中2のいる世帯(図 202)



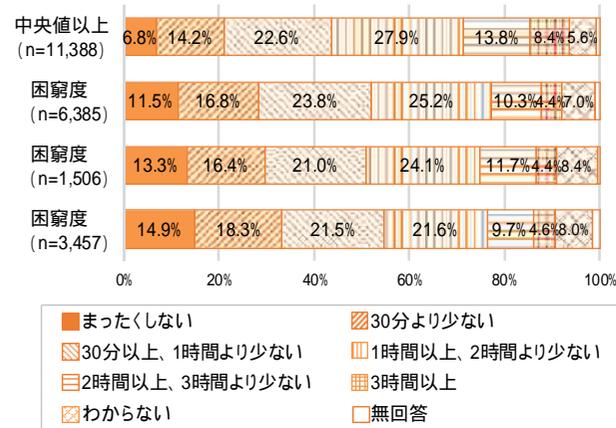
5歳児のいる世帯(図 142)



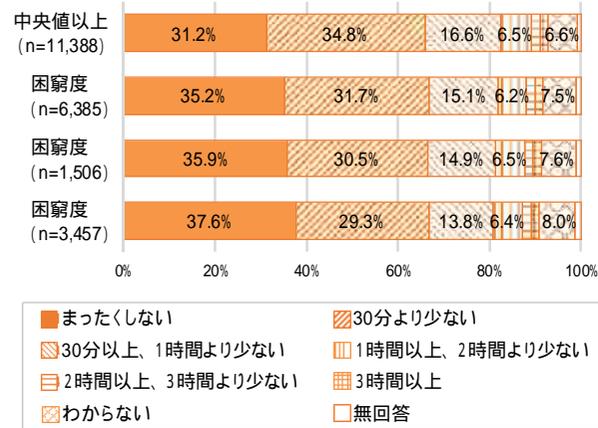
「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の86.0%に対し困窮度群は68.1%となっています。  
5歳児の保護者では、中央値以上群の91.1%に対し困窮度群は77.7%となっています。

## 9 困窮度別に見た学習の状況(小5・中2のいる世帯)

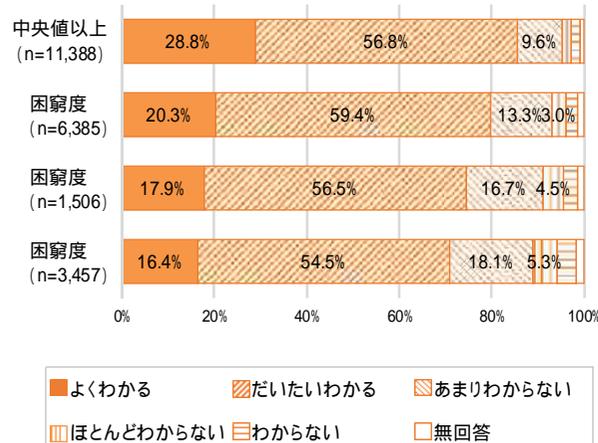
授業以外の勉強時間(図 210)



授業以外の読書時間(図 211)



学習理解度(図 212)



困窮度別に学習の状況について見ると、授業以外の勉強時間については、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 6.8% であるのに対し、困窮度 群では 14.9% となっています。

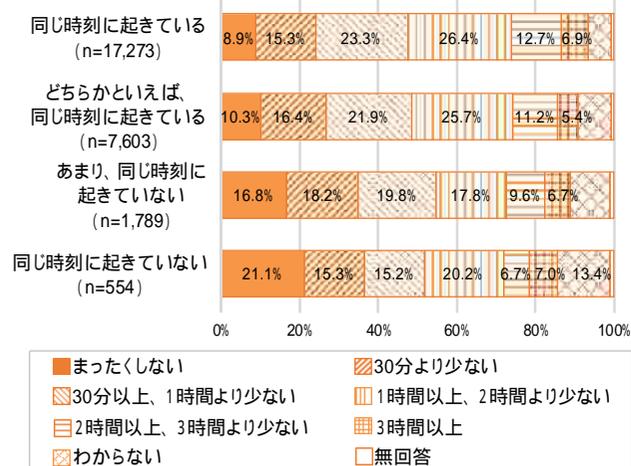
また、授業以外の読書時間についても、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 31.2% であるのに対し、困窮度 群では 37.6% となっています。

学校の勉強については、困窮度が高くなるにつれ「よくわかる」と回答する割合が低くなっており、中央値以上群では 28.8% であるのに対し、困窮度 群では 16.4% となっています。

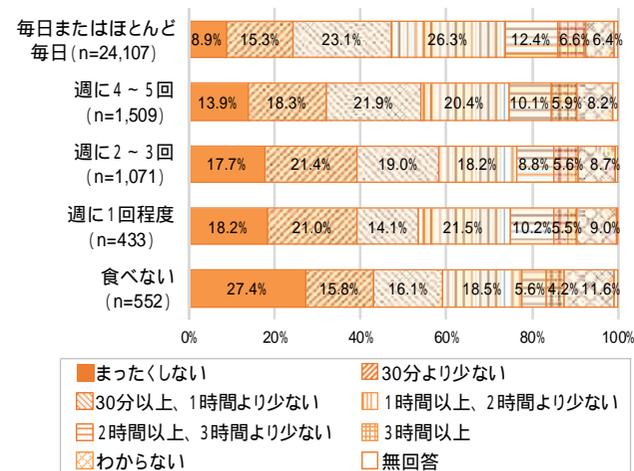
## 10 生活リズムと学習の状況(小5・中2のいる世帯)

### ・授業以外の勉強時間

#### 起床時間の規則性別 (new)



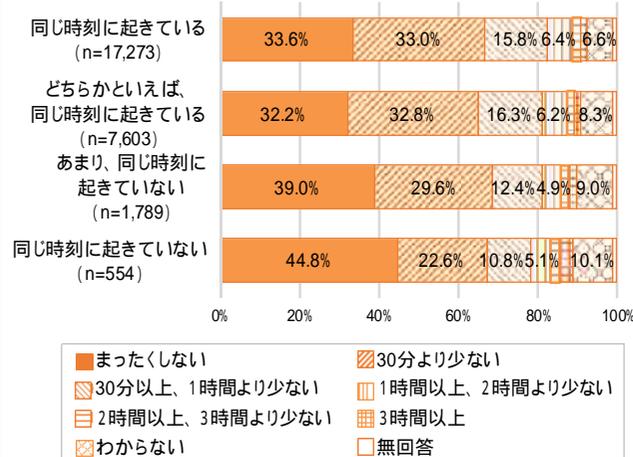
#### 朝食の頻度別 (new)



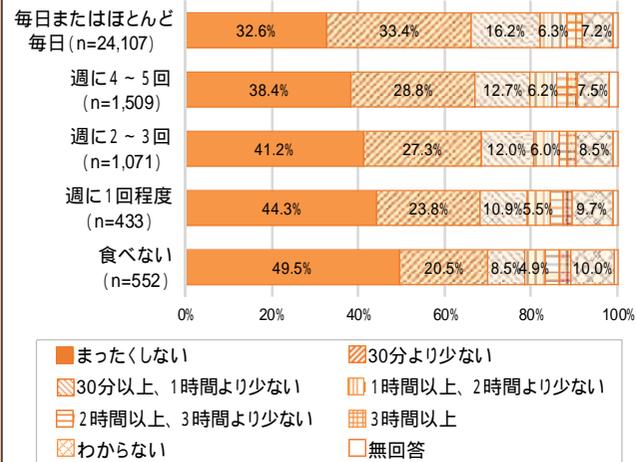
授業以外の勉強を「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 8.9%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 21.1%、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 8.9%であるのに対し、食べない群では 27.4%となっています。

### ・授業以外の読書時間

#### 起床時間の規則性別 (new)



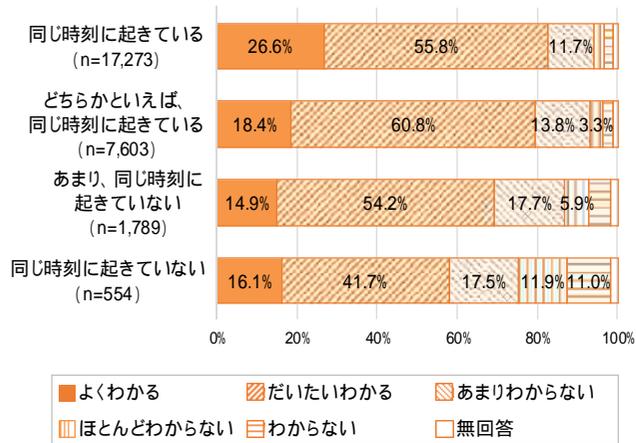
#### 朝食の頻度別 (new)



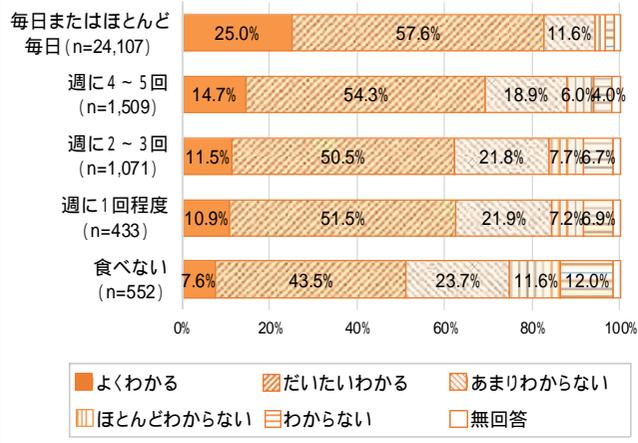
授業以外の読書を「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 33.6%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 44.8%、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 32.6%であるのに対し、食べない群では 49.5%となっています。

・学校の勉強

起床時間の規則性別 (new)



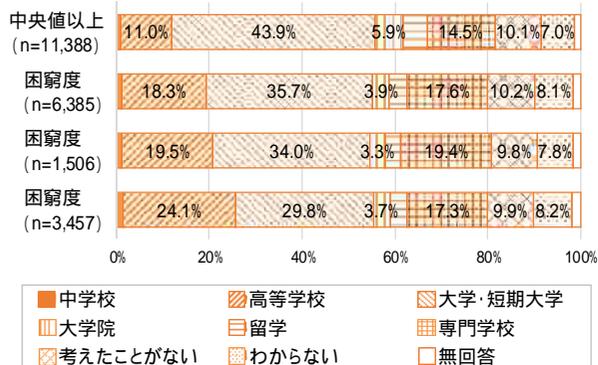
朝食の頻度別 (new)



「よくわかる」「だいたいわかる」の割合の合計は、同じ時刻に起きています群は 82.4%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 57.8%、毎日またはほとんど毎日群は 82.6%であるのに対し、食べない群では 51.1%となっています。

11 子どもが希望する進学先

困窮度別 (図 239)



困窮度が高くなるにつれ、学歴の低い進学先を希望する割合が高くなり、高等学校を希望する割合は中央値以上群では 11.0%であるのに対し困窮度 群では 24.1%、大学・短期大学を希望する割合は、中央値以上群では 43.9%であるのに対し困窮度 群では 29.8%となっています。